

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 小田日出子	職名 教授	学位 修士(法律学)(九州国際大学 1998年)
----------	-------	--------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
基礎看護学, 基礎看護技術 社会人基礎力の育成・向上	看護技術教育, 社会人基礎力, 主体的学習

研究課題
看護技術教育に関する研究 大学生の社会人基礎力の向上と主体性の育成に関する研究

担当授業科目
生活援助技術論演習(1年後期) フィジカルアセスメント技術演習(1年後期) 看護過程論(2年前期) 看護キャリア形成論(2年前期) 基礎看護学実習Ⅰ(1年後期), 基礎看護学実習Ⅱ(2年前期) 看護総合演習(4年前期・後期) 看護総合実習(4年前期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【看護過程論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での緊急事態宣言を受けて、2年次生92名を対象に、今年度の授業は全て遠隔で実施した。 ・Google Classroomでの講義【知識・理解】、①～④のブレイクアウトウームを利用したグループワーク【思考・判断】、また看護実践としての計画実施【技能】については、各学生グループが企画した援助計画を教員が代行しロールプレイングするという形で看護学実習室からLIVE配信する方法をとり、受講生が①看護過程の一連のプロセスを理解し、看護問題に対処する手段として、②問題解決的アプローチの方法を習得することを目指した。 ・本授業の概要、流れを把握するために必要な情報(学習目標、授業内容及び授業進行など)は、Google Classroomの「ストーリーム」を利用して、事前に受講生全員に配信した。 ・毎回の授業に必要な資料(授業スライド、補足資料、課題など)は、昨年度までの対面授業時よりも数日早く「トピック」毎に提示するようにし、印刷等、学生が余裕をもって授業準備を整えられるように配慮した。 ・講義はグループワークの進捗状況に照らして適時に実施するため、教員間の情報交換を密にし、状況把握に努めた。 ・遠隔での講義は、助教との2人体制で実施した。 ・グループ学習活動への支援は基礎看護学分野の教員5名と同助手1名の計6名で行った。通常、1教員が学生5～6名のグループを2～3グループずつ担当するが、今年度は、新任者(講師、助教各1名)が初めてということもあり、助手1名と前述の新任者2名については、科目責任者との2人体制で担当グループのチューター役割を果たすこととした。 ・グループワーク時の振り返りには独自に作成した観点別評価シートを用い、学生自らが所属するグループの学習活動を客観視するとともに、グループとしての目標達成状況を確認できるようにした。振り返りの結果

は全体で共有し、他との違いを意識させることでグループ学習活動の活性化を図った。

- ・例年、各グループの学習成果の披露と学びの共有を目的に、それぞれが導き出した援助技術を発表する場を設けてきた。今回それは叶わなかったため、代替案として、各グループが企画した援助計画の中から、より妥当と判断した計画を選抜し、教員が代行して「学生編」としてロールプレイングした。併せて「看護師編」も実施し、2通りの看護実践をLIVE配信した後、グループ毎にリフレクションの時間を設け、提供した看護技術の振り返りを行った。「学生編」と「看護師編」を対比させたことで、EBN(根拠に基づく看護)の実践という視点で、より深く考えさせることができたように思う。
- ・当該科目の達成度評価は、授業中に数回に分けて実施した小テスト(50%)、個人学習/課題レポート(30%)、グループワークの中の発言や口頭説明の適切さ(20%)、及び遠隔授業全般を通しての学習貢献度(マインドセット、グループワークの参加状況・参加態度、個人学習への取り組みなど:20%)による総合評価とした。

最終評価はクラス平均が81.4点(最高93点,最低68点)で、昨年度66.7点(最高89点,最低41点)を大きく上回った。評価の内訳も、秀6(0)名、優56(14)名、良27(29)名、可2(36)名で、再試験該当者なく、受講生92名中、学期途中休学の1名を除く91名が当該科目の履修を修了した。 ※()内は前年度の人数。

授業科目名【 看護キャリア形成論 】

- ・2年次生93名を対象に、今年度の授業は全て遠隔で実施した。
- ・授業は、Google Classroomでの講義、個人ワーク及びブレイクアウトルームを利用したグループワーク、また先輩OGによるリモート・パネルディスカッション等で構成した。
- ・授業に必要な情報(授業概要、授業進行等)は、Google Classroomの「ストーリー」を利用して、事前に受講生全員に配信した。特に「評価」については、予め、学習ポートフォリオの作成・提出を求めること、評価対象とすることを含めて具体的かつ丁寧に説明した。
- ・特定のテキストは使用しなかったため、毎回の授業に必要な資料(講義資料、各種ワークシート、課題など)は、昨年度までの対面授業時よりも数日早く「トピック」毎に提示するようにし、印刷等、学生が余裕をもって授業準備を整えられるように配慮した。
- ・講義は助教との2人体制で臨んだ。授業中、同席の助教には、チャットを活用して、①学生の入退室状況の確認、②講義内容の要点整理、③学生の質問への回答、④問い合わせへの応答、⑤強制退出等、遠隔授業中のトラブル対応等を依頼し、円滑な授業進行に努めた。
- ・授業では、①“キャリア形成”に関する知識・理論を概説し、看護職としての自身の未来を考える“きっかけ”づくりの場となるように②学生の自己理解を促し、③職業理解を深めさせ、その④キャリア選択に係る意思決定を促し、さらに現時点での⑤看護キャリアプランの作成を支援した。
- ・受講生とはPCの画面越しではあったが、講義の合間に個人ワークやグループワークを取り入れ、可能な限り双方向での参加型学習となるよう工夫した。
- ・グループワークは、学生6名ずつのブレイクアウトルームを15編成し、折々に学生間のディスカッションを取り入れた。教員は各部屋を訪問しながら全体をファシリテートした。
- ・看護キャリア形成の実例として、授業4回目に本学看護学科OG4名(助産師、地域包括ケア(訪問看護師)、大学教員、海外での看護師育成支援事業に貢献)を外部講師として招聘し、Meetでのパネルディスカッションを企画・実施した。学生達の興味・関心は極めて高く、積極的に質問する学生も見られ盛会であった。次年度も様々な場で活躍中の講師を選定して継続する。
- ・当該科目の達成度評価は、学習成果としての課題レポート(50%)、発表(口頭、プレゼンテーション:10%)、レポート外の提出物(20%)および「その他」として、日ごろの遠隔授業への取り組み(積極的・主体的学習姿勢・態度、Meet Meetingへの参加度/貢献度、出席状況など:20%)により総合的に評価を行った。

最終評価はクラス平均が79.1±6.23点(最高100点,最低70点)で、成績分布の内訳は、標準レベル以上の学生が92/93名(残り1名は前期休学後退学)、98.9%、うち理想レベルに達した者は37/92名、40.2%、努力を要する「可」レベルの者は0/92名、学期途中休学(2020.7.1付)の1名のみ「不可」とした。なお、当該学生は2020.9.30付で退学となっている。総合評価の内訳は、秀8名、優29名、良55名、可0名で、92名の学生が当該科目の履修を修了した。

授業科目名【 生活援助技術論演習 】

- ・1 年次生 109 名(→後期～休学 1 名, 残り 108 名)を対象に, 後期開始後の 10 月, 11 月第 1 週までは COVID-19 感染拡大防止策を講じつつ対面授業を実施した. その後, 学内 COVID-19 班による BCP レベル 4 への引き上げに伴う入構禁止措置を受け, 残り全ては遠隔授業として実施した.
- ・当該科目は複数教員が單元ごとに授業を担当するオムニバス形式 (3 単位 90 時間) で実施している. 今年度は「食事援助技術」を講義・演習合せて 6 コマ (12 時間) のみ担当した.
- ・遠隔授業下, DVD, 自作動画視聴による反転学習, 遠隔講義, 課題を基にブレイクアウトルームに分かれて行うグループ学習活動, 及び実際に教員がデモンストレーションする技術を配信し実践し, それを LIVE 配信するなど, 昨年までと異なり, 演習を通して技術の実際を体験的に学ぶ機会を失った学生達の看護の基本技術習得を促すために, 「どうすればより分かりやすいか」「どうすればリアルに実践をイメージできるか」など, 関係教員間で日々検討を重ね, アイデアを出し合い, 協力し合いながら, 様々な工夫を凝らして授業を展開した.
- ・講義資料はもちろんのこと, 基本看護技術の習得に必要な「技術手順書」, 反転授業用の自作動画や DVD 等, 資料は事前に Classroom にアップロードし, 学生の自主学習を支援した.
- ・授業後は, 知識の整理と蓄積を目的に学修ポートフォリオの作成を促した. また, 一定期間を置いた後の「理解度確認テスト」も準備・実施し, ケア技術のエビデンスとなる知識の定着化を図った.
- ・実技試験については, 対面から遠隔に変更となる事態を予測し, 例年より 2 ヶ月早く本試験を 10 月末の実施とした. 学生は熱心に練習に励んだが, 3 密を避け, 時間, 場所, 機会と様々な制約ある中での練習量の不足は否めず, の連取時間的には 11 月以降対面授業ができなくなったため, 課題レポートに変更し, これをもって達成度評価の指標とした.
- ・筆記試験については, 担当した「食事援助技術」の問題 (全体の 10%分) を作成・出題した.

最終 108 名の受講生に対し, 筆記試験(60%), ポートフォリオ(10%)及びその他(30%)(課題レポート(25%) + 学習貢献度(5%))による総合評価を行った. その結果, 最終評価としてのクラス平均は 68.7 ± 9.21 点(最高 86 点, 最低 24 点)で, 秀 0 名, 優 11 名, 良 44 名, 可 52 名, 不可 1 名の結果となり, 108 名中 107 名が当該科目の履修を修了した. 再試験受験対象者 9 名のうち「不可」1 名が, 次年度当該科目を再履修することとなった. 休学した 1 名については, 2021.3.31 付退学となっている.

授業科目名【 フィジカルアセスメント技術演習 】

- ・1 年次生 106 名(1 年次生 104 名 + 再履修者 2 名, →後期～休学 1 名, 残り 105 名)を対象に, 後期開始後 10 月末までの 3/7 回は, COVID-19 感染拡大防止策を講じつつ対面授業を実施した. その後, 学内 BCP レベルの引き上げに伴う入構禁止措置を受け, 残り全ては遠隔授業として実施した.
- ・例年, 授業は, 観察技術としてのバイタルサイン測定技術, 呼吸・循環器系, 消化器系, 感覚器・神経系, 筋・骨格系のフィジカルアセスメントに必要な身体診査技術の順に進めているが, 今年度については, COVID-19 感染拡大への懸念から, 対面授業の期間中に, まずはバイタルサイン測定技術」の習得を優先し, 自主練習も含めた時間の確保に努めた.
- ・100 名を超える学生に看護基本技術を確実に習得させることは容易ではない. その上, COVID-19 感染拡大防止策の徹底を図りながら学生個々の技術習得に向けた演習を支援・指導するために, クラスを 4 分割し 26~28 名の少人数グループを編成して技術演習を行ったり, グループ毎の自主練習時間を確保したり, 練習場所の確保・使用物品の準備, 指導教員の担当時間の確保・調整を図るなど, 様々な工夫・配慮が必要であった.
- ・授業 3 回目に予定通り「バイタルサイン測定技術」の実技本試験を実施するに至ったが, 前述状況下での実技試験となり, 結果は, 受験者 105 名中本試験合格者 57 名 (54.3%) と例年を大きく下回った. 当日, 発熱等を理由に欠席した追試験対象者も 3 名おり, 不合格となった 45 名と合わせて, 残り 48 名について実技再試験の実施が必要となった. しかし, 本試験後間もなく BCP レベル 4 で入構禁止措置がとられたため, 再度, 学生の大学への入構が許可され, 対面で実技追再試験を実施できたのは, 本試から約 3 か月後の 1 月末であった. このため, 急遽, 事前の練習期間を設定し, 対象学生の技術習得への支援を行ったが, 結果的には, 追試験対象者 3 名は合格, 再試験受験者 45 名中 33 名は合格, 残り 12 名は不合格であった (※不合格者の数は例年の 3~4 倍に相当). 不合格となった 12 名の学生については, 次年度臨地実習 (基礎看護学実習 II) の前までに, 改めての実技指導が必要と考えている. なお, 後期より休学中の 1 名に

については、2021年3月31日付退学となっている。

筆記試験のクラス平均は60点満点中43.0(42.2)点(最高55(55)点, 最低25(29)点)で昨年度とほぼ変わらなかった。総合評価は筆記(60%), 実技(25%), 課題レポート(10%)及び学習貢献度(5%)で行ったが、総合評価のクラス平均は74.8点(最高94点,最低45点), 成績の内訳は、秀4名, 優30名, 良46名, 可16名, 不可9名であった。不可=再試験該当者9名については筆記(100点満点)による再試験を実施, その結果, 6名は再試験に合格して履修を修了, 残り3名は不合格のため, 次年度再履修となった。(※()内の数値は前年度)

授業科目名【 看護総合演習 】

- ・4年次生7名を対象に, 前期は全て遠隔で, 後期は10月対面, 11月以降遠隔で, 看護総合実習(看護管理)に向けてのゼミナールを展開した。
- ・ゼミナールは, 当初8月末実施を予定していた臨地での「看護総合実習(看護管理)」に向けた課題学習を中心に, 学生2名ずつが担当する3テーマについてのプレゼンテーション(資料提示, 口頭発表)を基に進行した。
- ・4年間の学びの集大成と位置づけた「看護総合実習(看護管理)」の実施に向けて, 学生は2~3名に分かれて担当した課題を調べ学習し, その成果をゼミでプレゼンテーションする, その発表を基に実習の目的・目標を検討・決定するところから, 本実習に関する企画・実施・評価に至る一連の過程にメンバー全員で協力して主体的に取り組む。この間, 教員はファシリテーターとしての役割を担い, 適時, 助言・指導を行った。
- ・ゼミでは, 「看護管理」に必要な知識の獲得を促すとともに, 学生の「前に踏み出す力」「考える力」「チーム力」など, 社会人基礎力(3つの能力/12の構成要素)強化を目標に, 主体的学習者としての姿勢・態度・行動を求めることを意識しながら関わった。
- ・毎回のゼミ終了後は, 当日の学習活動の振り返りとして, 学生にはGoogleフォームで作成した「振り返りシート」に記入・提出してもらった。記載された内容は次回ゼミで活かせるよう整理し, 学生に還元した。ゼミのたびに学生個々の「振り返り」を促し, その内容を共有することで, 学生が他との意見の違いに気づいたり, 事象の捉え方・考え方の広がりや深まりに繋がることを期待した。また, ゼミナール活動の活性化を図った。
- ・看護総合演習及び看護総合実習での学習成果(まとめ)は, 個別に「課題レポート」として提出を求め, 評価の対象とした。

当該科目の達成度評価は, 課題レポート, ゼミナール中の発言や口頭説明の適切さ及び遠隔授業全般を通しての学習貢献度(マインドセット, グループワークの参加状況・参加態度, 個人学習への取り組みなどによる総合評価)とした。総合評価の平均点は84.1点(最高93点,最低73点), 成績の内訳は, 秀2名, 優3名, 良2名で, 7名全員が当該科目の履修を修了した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護学教育学会		1998年7月～現在に至る
日本看護科学学会		1998年12月～現在に至る
九州看護理論研究会		1999年4月～現在に至る
日本看護診断学会		1999年6月～2021年2月15日付退会
日本看護技術学会		2007年12月～現在に至る
日本看護倫理学会		2009年6月～現在に至る
日本がん看護学会		2009年12月～2021年1月25日付退会
日本看護管理学会		2012年10月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文) 特記事項なし				
(翻訳) 特記事項なし				
(学会発表) 特記事項なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
特記事項なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
特記事項なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本看護協会/福岡県看護協会 ・ 西南女学院大学認定看護師教育課程 	<ul style="list-style-type: none"> 会員 認定看護師教育課程検討委員 	<ul style="list-style-type: none"> 2005年4月～現在に至る 2016年4月1日～現在に至る
<ul style="list-style-type: none"> ・ 門司掖済会病院看護部看護研究指導 ① 第1回：研究計画書の作成 ② 第2回：質問紙調査，質問紙の作成 ③ 第3回：データ分析，最終指導 ④ 第4回：院内研究発表 	講師	<ul style="list-style-type: none"> 2016年5月11日～現在に至る 電話およびメールで対応 不参加

・西南女学院大学認定看護管理者教育 課程ファーストレベル	「討議法」オリエンテーショ ン講師(1時間) 「資源管理 I -看護における 情報の管理」講師(6時間) 「討議法」講師(3時間)	2020年9月3日 2020年10月31日 2020年12月19日
・北九州市国民健康保険運営協議会 ① 令和元年度第 1 回北九州市国民 健康保険運営協議会 ② 令和元年度第 2 回北九州市国民 健康保険運営協議会	副会長	2012年2月～現在に至る 委嘱期間(継続)：2019年9月1日～ 2022年8月31日まで(3年間) ←開催されず(資料郵送のみ) 2021年2月10日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

【大学委員会】

● 2020.4.1～2021.3.31 看護学科入学試験委員

- ✓ 大学委員会のうち「入学試験会議」に属し、看護学科入試委員として、看護学科長とともに 2021 年度入学試験に関する事項（入学者選抜要項の検討、入学試験実施に関する事項、入学者選抜方法に関する事項、入学者の選抜に関する事項等）の審議に加わり、コロナ禍における入学試験の円滑な実施に向けて自身に課せられた業務・役割を COVID-19 感染拡大防止策にじゅうぶん配慮しつつ粛々と遂行した。
- ✓ 推薦入学試験(指定校推薦・公募推薦)の折、担当した業務・役割を支障なく遂行した。
- ✓ 一般入学試験（前期）の折、主任監督者としての業務・役割を支障なく遂行した。
- ✓ 一般入学試験（後期）の折、担当した業務・役割を支障なく遂行した。
- ✓ 助産別科一般入学試験に関して、依頼された業務・役割を支障なく遂行した。

● 2016.4.1～現在に至る 学び場プロジェクト委員

- ✓ 2016 年度より、旧 FD 研修企画委員会メンバー（5 名）のうち、上村眞生准教授（福祉学科）を中心に、教・職・学合同の全学的な取り組みとして、「学びの拠点づくり」として、主に看護学科、福祉学科の学生有志による自主活動グループ；STEP UP への支援を継続して行っている。
- ✓ 昨年度に引き続き、看護学科、福祉学科の新 1 年生を対象に、教務課との連携を図りながら、先輩学生による新 1 年生へのリモートによる「履修指導支援」を企画・実施した。今年度も多くの学生が参加しており、次年度もさらに充実した支援が行えるよう工夫していきたい。
- ✓ 教員集団としては、本学共同研究費の助成を受けた「社会人基礎力養成のための『意図的な Hidden Curriculum（潜在的カリキュラム）』構築に関する研究」に継続して取り組んでいる。

【学科役割】

- 2016 年度より、看護学科入学試験委員を継続して担当している。また、実習コーディネーター、3 年生アドバイザー責任者、認定看護師教育課程検討委員及び助産別科一般入学試験関連業務等、学科で与えられた業務・役割を誠実に遂行した。